第63回読売教育賞

学校や地域での優れた教育実践を顕彰する「第63回読売教育賞」は、全国から12部門に124件の応募があり、最優秀賞11件（一部部門は該当なし）、優秀賞13件が決まった。「学校づくり」など、優れた報告が多いと評価された部門もあった。最優秀賞の表彰式は11日、高円宮妃久子さまをお迎えして読売新聞東京本社で行われ、受賞者には盾と副賞50万円が贈られる。実践報告書の要旨と、選考委員の講評を紹介する。（敬称略）

■地域社会教育活動部門
公益社団法人
群馬県助産師会

2万人にいのちの授業

授業で使う胎児の人形を囲み、打ち合わせをする鈴木会長（右から3人目）ら

「15年間の地道な活動が評価されてうれしい。まだ実施していない学校にも広がってほしい」。鈴木せい子会長(66)（太田市）は喜びを語る。

命の現場にいる同会の助産師13人が県やみどり、太田市の委託費などで、県内の小学校中心に年間約130校の児童生徒と保護者ら計約2万人に自己肯定感を育む「いのちの授業」を届けている。

メッセージは「生きてるだけで百点満点」。母親の胎内で約2000倍もの大きさに育ったこと、命懸けで狭い産道をくぐり抜けたことなど「胎内でのたくましい生きる力」「生まれてくることのすごさ」を伝え、「自分は待ち望まれた大切な宝物で、周りを幸せにする力がある」と気付かせる。実物大の胎児の人形を抱いたり、子宮を再現した大きな布袋で生まれてくる模擬体験を実施したりする。

未成年の自殺やいじめといった事件の続発が活動のきっかけ。授業前後に児童6662人に実施した調査で、自分を大切に思えない児童が132人と約3分の1に減り、大きな心の変化がみられた。メンバーは「みんなに『生まれてきてよかった』と思ってほしい」と情熱を燃やしている。

【2014年7月3日㈭　読売新聞掲載】

■地域社会教育活動
公益社団法人
群馬県助産師会（太田市）

「助産師による自己肯定感をはぐくむ『いのちの授業』の実践」

いじめを原因とした子どもの自殺が社会問題となっている。

鈴木せい子代表

命の大切さ 出前授業

助産師としての専門性を生かして、毎年、小中学生や高校生、保護者ら約2万人を対象に、命の大切さを伝える出前授業を実施している。子どもらは、大きさや重さが本物に近い胎児の人形を抱っこしたり、妊婦に協力してもらって胎児の心音を聴き、自分の心音と比べたりする。多くの体験活動を通じて、生まれてくることの素晴らしさを実感させ、自分を大切にし、他人も尊重できるような心を育んでいる。

最優秀賞11件を紹介

■地域社会教育活動
佐藤一子・法政大学教授

14件の応募があり、学校・地域・行政・企業などが連携して、子どもと大人がともに考え、成長している優れた報告が多く寄せられた。最優秀賞の群馬県助産師会は「いのちの授業」を行い、子どもらに「生まれてきてよかった」という感動を呼び起こしている。地域の自然再生や町づくりに参加する高校生や、東日本大震災の被災地における交流の報告も興味深かった。

【2014年7月3日㈭　読売新聞掲載】

■地域社会教育活動部門　公益社団法人　群馬県助産師会（群馬県太田市）

「いのちの授業」で語りかけ

児童に胎児や赤ちゃんの人形を抱かせる鈴木会長（左端、菲川西小で）

「生まれてきただけですごいこと。みんな世界でたった一つの宝物なんだよ」。群馬県助産師会が6月、太田市立菲川西小学校で開いた「いのちの授業」で、鈴木せい子会長(66)が5年生約80人に語りかけた。

同会は約15年前、命の大切さを伝えようと、出前授業を始めた。活動メンバーは13人。昨年度は小中高125校で、保護者らを含む約2万人に授業をした。手作りした教材を使うほか、児童に胎児や赤ちゃんの人形を抱かせる鈴木会長が広がった。

児童の代表にそれぞれ妊娠3か月、5か月、8か月の胎児や生後間もない赤ちゃんとほぼ同じ大きさ、重さの人形を抱っこさせた。鈴木会長が「おなかの中で2000倍の大きさに成長できたのはすごいよね」と話すと、「えー」という声が広がった。

同会は約15年前、命の大切さを伝えようと、出前授業を始めた。活動メンバーは13人。昨年度は小中高125校で、保護者らを含む約2万人に授業をした。手作りした教材を使うほか、妊婦を招いて、子どもに胎児の心音を聞かせ、小さな命が懸命に生きていることを体感させたりもする。

同会のアンケートによると、県内の小学生6662人のうち「生まれてよかった」と思えない児童は、授業前の304人から授業後は117人に減った。鈴木会長は「同様の活動が全国に広がってほしい」と話している。（田中ひろみ）

佐藤一子・法政大学教授
「命の誕生の瞬間に立ち会う助産師の専門性を集団で掘り下げ、工夫を凝らした教材で子どもたちに体験学習させて、命のかけがえのなさを語りかける意欲的な実践である」

【2014年8月16日㈯　読売新聞掲載】

“新潟県JUST♡いのち”の会より素敵なお花をいただき、メッセージが寄せられました。
長年の活動、功績が認められたことは教えをいただいた私たちの大きな喜びです。11年前、群馬に向かった時の高揚する気持ちは今でも忘れることなく私たちの胸の中にあります。今年度も多くの小学校・保育園から依頼をいただいていますが、「生きてるだけで百点満点」の言葉に込められた思いがすべての子どもたちの心に届くようにと思っています。　本当におめでとうございました。　（一部抜粋）

第63回読売教育賞　「地域社会教育活動」部門　最優秀賞！受賞

この度、第63回「読売教育賞」の「地域社会教育活動」部門において最優秀賞を受賞しました。県助産師会として団体受賞です。17年間取り組んできた「いのちの大切さを伝える」出前講座事業が授賞対象となりました。本会は毎年約2万人の子どもや大人たちに「いのちの現場からのメッセージ」を届けています。本賞は読売新聞社主催です。63年という伝統のある、教育界で最高の賞と評されています。学校の先生方の独創的で先駆性あふれる教育実践についての応募が主で12部門あります。実践報告（論文）による公募コンテストです。私たちのように外部の人間が学校に出向く健康教育の実践も応募できます。教育界のコンテストに看護関係者の最優秀賞受賞はおそらく63年間で初めてだと思います。今回の受賞は、助産師の活動が幅広く多くの方々に認識していただく良い機会になると思います。

講　評

佐藤一子（法政大学教授）審査委員
「本部門には14件の応募があり、学校、地域、行政、企業などが連携して、子どもと大人がともに考え、成長している優れた報告が多く寄せられた。最優秀賞の群馬県助産師会は、「いのちの授業」を行い、子どもらに「生まれてきてよかった」という感動を呼び起こしている。
（2014・7・3　読売新聞　全国版記事より一部抜粋）

「いのちの誕生の瞬間に立ち会う助産師の専門性を集団で掘り下げ、工夫を凝らした教材で子どもたちに体験学習させて、命のかけがえのなさを語りかける意欲的な実践である」　（2014・8・16読売新聞　全国版記事）

受賞の栄に浴して

会長　鈴木　せい子

ある日の夜、7時過ぎ電話が鳴りました。読売新聞社から受賞の連絡でした。「やった！」私たちの長年の取り組みが評価された瞬間でした。本賞には以前から関心が有り、機会が有ったらエントリーしようと思っていました。論文の執筆にとりかかったのは締め切りの約一か月前。5月の連休中は最後の追いこみで寝食を忘れ、ただひたすらパソコンのキーをたたいていました。ようやく仕上がり郵便局に持ち込んだのは締め切り前日の閉局10分前でした。論文と言っても学術論文でなく、どちらかというと実践ありきの実践報告。ですから、17年間の足跡をもとに、みんながふだん行っている実践をまとめるだけで、特に大変さは感じませんでした。むしろ、既定の枚数（A4　10枚程度）にまとめる調整の方が難しく、オーバーした部分の削除に苦慮しました。

今から17年前、2か年間の国の補助事業として体制整備をしその後県単独の事業として本格的に学校に出向き始めました平成25年度の実績は小学校113校　児童数8,399人。中学校・高等学校　12校　生徒数　4,138人、　保護者・教職員6,792人計19,329人でした。小学校だけでも、県内すべての小学校、約三分の一以上に毎年出向いていることになります。現在は群馬県・太田市・みどり市の委託事業となっています。講座は、子どもたちの心に揺さぶりをかけ、いのちの大切さを心でしっかりと感じ取れるよう、体験学習主体のプログラム構成です。「自分ってすごい！」と子どもたちが自信を持ち、意識や態度の変容が図られるようたくさんの体験とメッセージがつまっています。特に体験学習の生命線ともいえる教材の考案・開発にはエネルギーを注ぎ、中には特許庁に登録した教材もあります。

論文には単に実践だけでなく、2年半かけた児童6,662人の調査研究の結果も含めました。講座による子どもたちの変化のデーターを統計的に処理し示しました。すでに小学生段階で「自分を大切に思えない」「生まれてこない方が良かった」と思っている自己受容できない子どもたちもいましたが、講座により心や行動に大きな変化があらわれ、自己肯定感が育まれた結果も示しました。

論文の「おわりに」には以下のようなエピソードにも触れました。「17年前の3月。県庁から帰宅したのは深夜。時刻はまもなく翌日になろうとしていました。神戸の児童連続殺傷事件が日本国中を震撼させていた頃のことです。私たちは行政に向かってアクションを起こしました。いのちの現場にいる職業人として何かお役に立つことができないだろうか。そうした思いから「いのちの大切さを伝える」事業の公的事業化をお願いしたのです。これが私たちの「いのちの授業」の原点です。いのちの現場にいる職業人として伝えなければならないことがある。そうした思いに突き動かされ、いつの間にか、学校に出向き子どもたちの前に立っていました。あれからもう17年目になるかと思うと感慨深いものがあります。この度の受賞はこうした長年にわたる地道な活動の成果だと受け止めています。ここに至るまで、ご理解、ご指導、ご支援をいただきました、教育、各関係者の皆様に深謝いたします。同時に、険しい道のりを共に歩んできた仲間にも心より感謝したいと思います。今後は、受賞の重みを心に刻み、一人でも多くの子どもたちが「生まれてきてよかった」と実感できるよう継続していきたいと思っています。

第 63 回読売教育賞　表彰式＆レセプションに出席して

関口　雅美

「最大級の台風 8 号上陸！」で特別警報が出される中、深夜まで気象情報にかじりついていた翌 7 月 11 日の朝は、心配していた台風も去り、嘘のように静かな夏空。読売新聞東京本社は、大手町駅C3 出口より「こちらでございます」と誘導すべく、黒御影石の重厚かつ厳かな新社屋へと道案内してくれました。表彰式は高円宮妃久子殿下ご臨席のもと、日本助産師会から葛西専務理事もお祝いに駆けつけて下さる中、格調高く「読売日本交響楽団」弦楽四重奏による～モンティ「チャルダッシュ」～で幕を開けました。中世の室内楽に興ずる貴族の気分に浸った後いよいよ表彰式です。11 名の受賞者の中で一番丁寧にゆっくりと礼をして楯を受け取る鈴木会長の姿は喜びに溢れていました。引き続きのレセプションでは、本会論文を“地域教育活動部門最優秀賞”に選考して下さった「法政大学教授　佐藤一子先生」が、ただちに自ら私たちのテーブルに駆けつけて下さいました。先生を囲んで、受賞の喜びを出前講座のメンバーで分かち合う事ができました。そうそうたる顔ぶれの審査員の中ひと際目を引いたのは、とても 53 歳には見えない「明治大学教授　齋藤孝先生」です。TBS あさチャンの顔…と言えばおわかりでしょうか…？鈴木会長は「まあ！先生～♡」と言って抱きつく(!?) お茶目な一面も垣間見せつつ、「いのちの講座」のアピールは抜かりなく遂行していました。流石です(^^;)v　最後に、メンバー一同の記憶に残るであろう、高円宮妃久子さまとの歓談✧　内面からの気品あふれる凛とした佇まいの中にも、親しみやすくウイットのある会話で心和むお時間を頂戴しました。この「いのちの講座」に、また一つの格付けを頂いた事は喜びであると共に、看板に恥じない講座をする責務が一層重くなると言う事。メンバー一丸となって今後も精進を固く誓った暑い夏の日でした。

佐藤一子（法政大学教授）審査委員（左）を囲んで
（公社）日本助産師会の葛西専務もお祝いに駆けつけて下さり喜びを分かち合いました

プレゼントされた 3 か月の胎児ちゃんを手にして
大喜びの佐藤一子審査委員（法政大学教授）
前日、産声を挙げたばかりの胎児ちゃんです！

♥　群馬県教育長表敬訪問　♥　8月8日

県教育長さんに受賞報告の表敬訪問に出向きました。限られた時間でしたが、本会の「いのちの授業」についての事業説明もさせていただきました。
またみどり市教育長さんにも表敬訪問しました。ご多忙の中約1時間20分という長い時間、熱心に耳を傾けてくださいました。つい先日講座に出向いた時には小学校の校長先生としてお会いしたばかりでした。みどり市は毎年全校の小学校に実施しています。中学校にも予算化をお願いしてきました

吉野勉
県教育長さんと
（県庁にて）

齋藤孝　明治大学教授を囲んでみんな嬉しそう！

県教育委員会　吉野教育長・田村教育次長・野村義務教育課長さんと

お祝いメッセージをたくさんの方々からいただきました。　ありがとうございました！

●おめでとうございます！今までの助産師のリプロヘルスの取り組みの成果が認められた社会的意義深い賞だと存じます。心からお祝い申し上げます。　（公社）日本助産師会　会長　岡本喜代子

●本日読売新聞朝刊拝見しました。改めましておめでとうございます。授賞式には出席させていただきます。
（公社）日本助産師会　専務理事　葛西圭子

●最優秀賞おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。群馬県助産師会の結束力の成果ですね。「継続は力なり」を実感し、助産師の力を示していただいたのかと思います。ますますの群馬県助産師会の発展を望んでおります。これまで、一人の助産師として、そして、一つの助産師会としてそのあゆみを確実に積み重ねられ、それ等を目に見える形にして世の中に示され、それ等が、受賞にまで結びついて行き、本当に助産師の仕事を見事に成し遂げられた方だと思います。これからも、多くの方々に助産師からのメッセージとして【いのちの輝き、いのちの大切さ】を伝えて行って下さいますように。厳しい暑さが続いております。　お大事に。千葉の講演会　本当に懐かしく先生の存在感に圧倒されながら準備をとどこうりなくそれぞれの役割を果たした講演会でした。あの講演から生徒の自立があったこと　とてもうれしいことでした。鶴岡からの一言はこれからの助産師会に対しての提言と受け取っております。鈴木先生の行動からも学びがたくさんあります。今後ともよろしくご指導のほどお願いいたします。
（公社）日本助産師会　助産所部会長　武田　智子

●鶴岡からも鈴木先生に一言
すごいです。アピール力が違います。私たちは、教育者ではありませんから、教育として形にしていくこと、データを集めて周囲に発信していくこと、データから得た結果で周囲を説得することなどなど、苦手なことがたくさんあります。今まで良い活動をしてきた先輩方でも、発信の機会がないために「・・・さんは、良い活動されていました。」「定年で、次に続かないので終わりだそうです」と、終わってしまうことも多かったのではないでしょうか？講座の内容を著書で公表し、積極的に論文の発表もされているようですし、助成金をコンスタントにもらいながら、県も味方にしている・・・この動きは、大切だと思いました。　（千葉県助産師会　鶴岡）

●お世話になっております。今朝、読売新聞を開きましたら、特別面として、1面全体に大きく【第 63 回読売教育賞　最優秀賞 11 件を紹介】との記事が目に飛び込んできました 鈴木会長をはじめ、群馬県助産師会の皆さん、本当におめでとうございました！ 長年実践されておりました【いのちの出前講座】が認められ、助産師が地域で教育活動をしていることを広く世に知っていただける機会にもなり、重ねて嬉しく思います。
（公社）日本助産師会　北関東地区理事　小田切房子

●昨年、私どもの上伊那助産師会が家族計画協会会長表彰を受賞できたのももとはと言えば、群馬県助産師会の「命の教育出前授業」の公開講座から続くご支援のお蔭さまと深く感謝いたしております。ありがとうございました。群馬県助産師会の皆様の常に前向きな「命の教育」に掛ける尽力に心を打たれます。長野県助産師会も奮起して助産師として導きたい命へのメッセージを発信できるプログラムを作成し、子供たちに伝えて行けるように頑張ります。　長野県助産師会　池上道子

●このたびは読売教育賞最優秀賞受賞おめでとうございます。鈴木先生はじめ、群馬県助産師会の皆様の長年の活動が評価されての受賞だと思います。心よりお祝い申し上げます。これからも、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。
一般社団法人　静岡県助産師会　会長　草野　恵子

●新聞を読ませていただき、すごい賞を受賞されたのだと感銘しております。会長始めとして会員の皆様の長年の活動が、地域社会における健康教育として認められた事を大変うれしく思います。鈴木先生、ますますのご活躍を今後もお祈りしております。　埼玉県助産師会　会長　中島桂子

●おめでとうございます. 心から嬉しく存じます.
京都府立医科大学医学部看護学科　松岡知子

●この度は第 63 回「読売教育賞」の最優秀賞の受賞おめでとうございます。鈴木先生をはじめ群馬県助産師会の皆さまの日頃からの「命」に対して真摯な活動のたまものだと思います。ますますのご活躍をお祈りもうしあげます。　一般社団法人千葉県助産師会　足立千賀子

●読売教育賞最優秀賞受賞おめでとうございます。長年の「いのちの大切さを伝える」出前講座事業での労が報われ、群馬県助産師会のご活躍がこのようなすばらしい賞の受賞につながったことを大変うれしく存じます。今後も、ますますのご活躍をお祈りいたしております。
公益社団法人京都府助産師会　会長三反園芳子

●おめでとうございました！以前、京都で助産師学生と供に先生のご講演を拝聴し感動したことを覚えます。今後も、ますますのご活躍をお祈りいたしています。　谷口初美　九州大学大学院医学研究院保健学部門　看護学分野（助産学・母性看護学）

●助産師のいのちの出前講座が認めてもらえたことが意義深いことと考えます。敬意を表してお祝を申し上げます。受賞にふさわしい実践を継続されていらっしゃることに心から敬意を感じています。
香川県助産師会　眞鍋由紀子

●以前千葉の小学校での実践を拝見させていただきました。心底感動し、先生と一緒に活動したいと心から思ったのを覚えています。実践報告書（論文）の全文、是非拝見させていただきたいと思っています。また機会があれば先生のご講演を拝聴できればと思っています。
茨城県助産師、鬼形　智美

●大変遅ればせながらですが、この度は受賞おめでとうございます。お慶び申し上げます。長年の功績が認められ、とても素晴らしいですね。群馬県助産師会の皆様の活動のお陰で、いのちの教育の道が開け、今の私たちの活動があると思っています。ラブバースのメンバーともこの喜びを共有させていただきました。静岡県では、今年度からライオンズクラブさんが講座料金の助成をしてくださることになり、少しずつ依頼が増えてきています。が、まだまだ周知されていないのと、この活動を取り入れようという機運が学校にもない状態です。予算の問題はクリアしたのに、なかなか前に進まない状態に手をこまねいているところもありますが、私たちも焦らず地道に頑張っていきたいと思います。余談ですが、昨日娘が通う学校から依頼が来ました!!懇談会の度に、お願いしていたのが功を奏したのかもしれません♪テレビ寺子屋も拝見しました。30 分という短い時間に、大切なお話がギュッと凝縮されていて、しかもジンと胸に来るお話でした。記事を読んでからずいぶん遅くなってしまったのですが、一言お慶び申し上げたくて、メールしました。では、お忙しい毎日かと思いますが、お体に気を付けてご自愛ください。　お茶畑助産院院長　ラブバース代表＠高橋　美穂

●この度は読売教育賞　最優秀賞受賞を誠におめでとうございます
大阪府内で助産師として 11 年目を迎え病院にて産婦人科に勤め、助産師会にて思春期事業に携わっています。鈴木先生の著書「助産師が伝えるいのちの教育～すべての子どもに「生きる力」という書籍に出会い、何度も熟読し病院で働くだけでなく、思春期や青年期の女性や男性に「生命」について考えてもらいたい！！という想いを胸に、思春期事業に取り組んでまいりました。そして、数年前より大阪府助産師会の思春期事業担当として努めさせていただき、大阪市の委託を受けて市内の中学校に出前講座を行っております。委託事業のみでは、大阪府下に 30 名近くの助産師がご活躍されています。生命の尊さ、両親への感謝、自尊心や自己肯定感へのアプローチ・・・助産師以外の職種の方でも語ることができる「いのちのメッセージ」を何とか「助産師だからこそ語ることのできる、伝えることのできる「いのちのメッセージ」があるハズ！！と、この数年間試行錯誤し、模索してまいりました。
どうか大阪府助産師会の思春期事業に従事されている講師の方々（助産師会員）と自己研鑽に励みたいと思いますので何卒、お力添えをいただきたいと思います。（一部抜粋）　大阪府　市村真希

●第63回読売教育賞、おめでとうございます！！！！！！地道で尊いご活動が、社会的に光を浴びることは、本当に素晴らしいことです。私もすごくすごく嬉しいです。　（株）佼成出版社　山上りえ

紙面の関係で一部抜粋させていただきましたことご了承ください。
なお、（公社）新潟県助産師会佐山会長さんはじめ行政の方や多くの方々からお祝いのお電話もいただきました。